

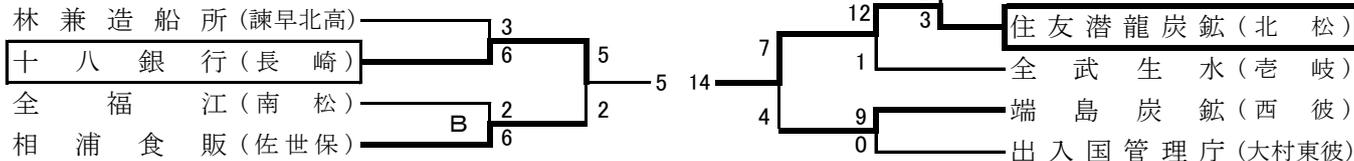
# 北松勢が銀杯を奪回して住友潜龍炭鋳が初優勝

## 第4回県下郡市対抗準硬式野球大会

会期：昭和29年10月16日(土)～17日(日)

会場：A・長崎市宮大橋球場 B・三菱球場

本大会は準硬式球を使用



第4回桑原長崎日日新聞会長杯争奪県下軟式野球選手権大会は、快晴に恵まれた16日午前9時から大橋球場で豪華絢爛の入場식을皮切りに二日間にわたる熱戦の火ブタを切って落とした。県警プラスバンドの行進曲吹奏裏に、渡辺長崎市軟式野球連盟副会長の先導で国旗ならびに長崎日日新聞社旗を先導に、前年度優勝

地区の佐世保・相浦食販、続いて北松・住友潜龍炭鋳、諫早北高代表・林兼造船、五島代表・全福江、島原南高代表・島原市役所、壱岐代表・全武生水、西彼・端島炭鋳、大村東彼代表・出入国管理庁大村収容所、長崎代表・十八銀行の順に入場して開会式が行なわれた。

(昭和29年10月17日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)



左は読売大杯、右が桑原会長杯

【一回戦】大橋：第1試合(開始10:08) 振球

島原市役所	000 200 000	2	1	1	【本】森山	【三】森中
住友潜龍炭鋳	100 011 00X	3	5	6	【二】高野、平田	

【評】島原市役所の積極果敢な攻撃に優勝候補の住友潜龍炭鋳も危うく勝利を収めた一戦だった。初回に与えずもがなの1点を与えた島原は、三回無死三塁打の森中をスクイズ失敗で同点機を逸したが、四回に死球で出た原口が二盗し森山の中前打がランニング本塁打となって逆転した。

これに対し住友潜龍は島原・森山投手のスローボールを強振し優勝候補らしからぬ攻撃ぶりだったが、ようやく五回二死後二塁右を抜く安打に出た土橋が二盗。菅の三遊間突破安打で還ってタイとした。さらに六回は無安打で1点を奪い、後半に投手を大浦にスイッチして逃げ切った。

敗れたとはいえ、島原の敢闘は賞賛に値するが、盗塁7個を許した捕手の弱肩が敗因の一つにあげられよう。(平井)

【島原】打安点	【住友】打安点
⑤ 游見 4 0 0	⑥ 菅 3 2 1
③ 多田 4 1 0	④ 奥村 3 0 0
⑥ 原口 3 1 0	⑦ 高尾 3 0 0
⑦ 永池 4 0 0	⑨ 高野 3 1 0
⑨ 森山 4 1 2	③ 深堀 3 0 0
⑨ 高木 4 0 0	⑨ 大浦 2 0 1
② 平田 3 0 0	⑧ 西村 3 0 0
⑧ 森中 3 3 0	② 中野 3 0 0
④ 谷口 3 0 0	⑤ 土橋 3 2 0
32 6 2	26 5 2

大会前日の長崎日日新聞に掲載されたチーム紹介より抜粋

**島原市役所** ○…地味でスケールこそ小さいが、攻守にバランスのとれたチーム。エース高木はわずか16歳であるが、プレート度胸は満点。ウエイトを十分にかけて投げ下ろす速球は相手チームの恐怖の的。しかもコントロールがよくドロップにも鋭さを増してきたが、最近肩を痛めており、どこまで県大会で投げられるかがチーム力を大きく左右しよう。

打線も老練な多田、永池、游見を中心に全員むらなく渋い当たりを見せ試合運びにもソツがない。遊撃の游見は小粒ながら守備範囲が広く、谷口との三遊間は鉄壁である。(監督=多田)

**住友潜龍炭鋳** ○…昨年度に続いての出場。県下では全国大会に出場し善戦した日鉄御橋と同等の力を有する強豪チームで、8月に後樂園球場で行われた全国炭鋳大会では優勝戦で福岡三井山野鋳に惜敗したが住友鋳業各対抗野球大会では三連覇を成し遂げている。トップの菅から土橋、高尾、大浦、高野と続く打線は他チームの追隨を許さぬ重量感がある。

昨年度は決勝戦で共済病院に惜敗しただけにナインの意気意気はものすごく、「今年こそは」と必勝を期しており、深堀友監督も「必ず優勝してみせる」と自信の程を示している。

○…懸念されたお天気も雲一つ無い青空、こんなのを絶好の野球日和というのだろうか。おまけに昨日まで低かった気温もまるで「本大会のため」のように朝からはうなぎ上り。朝晩は一寸冷え込んだが、日中は汗ばむような暖かさだ。おかげで黒一色に変わりつつある昨今の街頭風景とは違って変り、この日のスタンドは白一色。おまけにナイロンあり、新聞ありの急造日除けがアチラにもコチラにも色とりどり…。

○…県下軟式野球界の「メイン・イベント」といわれるだけに入場式の豪華さはさすが。しかもこの入場式と最終日の閉会式だけを毎年かかさず見にくるという人があるそうだから大したもの。県警察音楽隊の一糸乱れぬブラスバンド演奏に乗って入場した9チームのナインたちは、文字通り各地区で勝ち抜いてきた強豪ばかり。一説には、県下軟式野球選手権大会と別称するものもあるほどで、本大会の権威のほどがうかがわれる。



10月17日付けの長崎日日新聞に記された記事とカット絵を転載

○…ひところの軟式野球と違って、この頃はチームのレベルもグンと向上。しかも準硬式となれば「カーン」と発す快音と共に一投一打、1点を争う白熱戦が展開されて…野球の醍醐味は十二分。その上、入場無料が興味を倍にする。

○…今大会には珍しい顔ぶれが二人。一人は住友潜龍の土橋三塁手(島高出身)でかつては剛球投手。第1回大会では島原ニュースターズのエースで、第2回大会は日鉄御橋に籍をおいて、優勝の経験も持っており本大会4回連続出場のパイレーン。歩く時に両肩をピクピク動かす不思議な動作と共に忘れられぬ人気者だ。

もう一人は一度は西日本パイレーツにも籍を置いた浮田選手。今大会は佐世保・相浦食販の一員として顔を出しているが「鋭いスイング」はさすが、と注目の的。

【端島】打安点

⑤ 吉田	4	0	0
④ 川本	4	1	0
③ 森	4	1	0
⑧ 船津	4	2	1
⑨ 宮田	3	1	2
① 尾崎	3	2	3
② 高石	3	0	0
⑦ 豊福	2	1	2
⑥ 石丸	2	0	0
29 8 8			

【二回戦】大橋:第2試合(開始12:05) 振球

端島 炭 鋳	020 025 0	9	4	9	(7回コールドゲーム)
出入国管理庁(大村)	000 000 0	0	6	4	

【評】端島は二回に船津と宮田の連続長打と豊福の二塁内野安打で2点先行。五回には大村・新谷の単調なピッチングに川本、船津、尾崎が猛打を浴びせて2点を加えた。六回は投手の乱調に乗じて大量の5点を奪ってコールドゲームに仕上げた。

出入国管理庁はやや荒れ気味ながら早いモーションから繰り出すキレの良い尾崎のカーブに牛耳られ、五回につかんだ無死満塁の反撃機も、巧みな牽制球に二塁走者が刺され、続く宮田、清水も討ち取られて何ら成すすべなく敗れ去った。

【出入国】打安点

⑤ 津崎	2	0	0
5 山崎	1	0	0
④ 宮田	3	0	0
② 清水	1	0	0
③ 永淵	3	0	0
⑥ 田中	3	1	0
①⑨ 新谷	3	1	0
⑦ 平田	2	0	0
⑧ 隈元	2	1	0
H 岸川	1	0	0
⑨ 寺井	2	0	0
1 山口	1	0	0
24 3 0			

【チーム紹介】

端島炭鋳

○…強豪高島を破って出場の新鋭チーム。主戦尾崎はオーバー・ハンドから投げ下ろす速球とスローカーブを交えた頭脳のピッチングで、最近ではカーブの切れ味がよくなってきている。打撃は小粒揃いながら、粘りがあり大物打ちはいないがムラのない打線を敷いている。特に森、船津、宮田のシャープな当りは心強く、しばしば試合を逆転している。しかも全員俊足ぞろいでバント戦法にもすぐれ相手内野陣をかく乱するので、うるさい存在となろう。

出入国管理庁大村収容所

○…チーム結成以来1年半足らずのチームだが今年になって県民体育祭代表になったのをはじめ地区A級決定戦、西九州大会予選で優勝。大村市役所、大村部隊などの古豪を顔色なからしめている。主戦投手の山口は左右どちらでも投げるという両刀使いで、他の投手にはマネのできない特技で打者を幻惑させている。平均年齢23歳と若いチームだけに思わぬところで若さを暴露しないと限らないが面白い存在のチーム。

【十八】打安点

⑦ 板倉	5	3	1
④⑤ 浜口	4	3	0
⑨④ 苑田	5	2	1
⑥ 比留木	4	1	1
⑧ 宮崎	5	1	0
⑤① 大久保	4	0	0
② 松本	4	1	0
2 小路	0	0	0
③ 磯田	3	1	0
①⑨ 馬場	4	0	1
9 小柳	0	0	0
38 12 4			

【二回戦】大橋:第3試合(開始14:10) 振球

十八 銀行	000 100 140	6	2	4	【二】比留木
林兼 造船所	000 020 001	3	6	2	宮地

【評】1点のリードを許した林兼は五回、敵失走者を二塁に置いて、バントが内野安打となり、捕手が一塁悪送の間に二走が還って同点。さらに山内の中前適時打で一度は1点リードを保った。

しかし十八銀行は七回に比留木の二塁打で同点とし、八回は宮崎の安打を足場に2四球と捕手悪送球を間に、板倉、浜口、苑田が連安打して決定的な4点を挙げた。

十八銀行は前半五回まで7安打を放ちながら1点しか奪えず、しかも三回は無死満塁のチャンスに強攻策に出て得点できなかったが、慎重に攻めておれば楽に勝てた試合だった。

【林兼】打安点

⑥ 川原	3	1	0
H 井原	1	0	0
⑧ 石丸弟	5	0	0
⑦ 山田	3	0	0
② 西川	4	1	0
④ 難波	4	0	0
③ 宮地	4	2	0
⑨ 山内	3	1	1
H 坂口	1	0	0
① 山崎	1	0	0
1 岩永	2	0	0
H 石丸兄	1	1	0
32 6 1			

★チーム紹介は次ページに掲載★

**十八銀行** ○…投手は速球の大久保、軟投の馬場の併用が考えられる。大久保の外角低目をつく直球は相当の威力がある。打線にムラがなく、どこからでも打ち出せる強味を持ち9試合で3割2分の高打率を示している。特に5番の宮崎は5割の打率を誇るスラッガー。トップの板倉も俊足巧打が売り物だ。地区予選では前年度の三菱造船、古豪の西部ガスなどを撃破して自信をつけており、優勝候補の一角である。

**林兼造船** ○…昨年に続いての出場。県民体育祭で県下屈指の強豪日鉄御橋を降して自信をつけており油断はできない。喜々津工場の難波所長は大の野球ファンでチームの育成には細心の注意を払っており、そのためか進境著しいものがある。長崎刑務所から西川(捕手)、川原(遊撃)、松本(中堅)を補強した。投手力も岩永一人では心細いので九電の山崎を加え、ドロップに定評があり期待は大きい。

【二回戦】大橋:第4試合(開始16:18) 振球

住友潜龍炭鋳	001 062 3	12	7	4
全武生水	001 000 0	1	3	4

【二】西村、高野

【住友】打安点	【武生水】打安点
⑥菅 5 0 0	③柴山 3 1 0
⑤土橋 5 1 3	④武末 3 1 0
⑦高尾 4 1 0	⑤野元 3 1 0
①高野 5 1 0	②太田 3 2 0
③深堀 4 1 2	①畑 2 0 0
⑨大浦 4 3 1	1山内 1 0 0
⑧西村 4 1 1	⑥中尾 3 0 0
②福富 2 1 0	⑧宮内 3 0 0
2中野 1 0 0	⑨大川 3 0 0
④奥村 3 1 0	⑦西川 2 0 0
37 10 7	26 5 0

【評】三回に1点をリードされた武生水は、その裏に敵失で出た西川が柴山の左翼線安打を野手が後逸する間に還って1点を返したあたりは全くの五角勝負だった。

だが六回に内野陣の連失にすっかり動揺した畑投手が四球を連発し、加えて痛いところを叩かれて致命的な6点を奪われ、後半は住友潜龍のペースに巻き込まれ、一方的な試合となった。(平井)

チーム紹介

全武生水

○…傑出したプレイヤーがおらず小粒ではあるが、そのチームワークの良さは随一だろう。投手陣には球質の異なる長谷川、畑、山内の3投手を擁しているが、いずれも完投能力に乏しく継投策で臨むが、これがうまく凶に当たると案外実力以上の力を出すかも知れないので初めから飲んでかかると危ない。

離島の壱岐ゆえに対外試合が少ないのが難点だが、大部分が第1回大会以来連続出場の手選手なので、アガるようなことはあるまい。最近全員に当たりが見られるようになったが、やはり打線の弱さは免れない。(監督=池田)

【全福江】打安点

⑤植松 4 0 0
⑥荒木 4 0 0
③川口 3 1 0
④山下 4 1 0
⑧日野 4 2 1
⑨相良 3 0 0
⑦鍵原 3 0 0
①八代 3 0 1
②磯田 3 0 0
31 4 2

藤川三振13を奪う

【二回戦】三菱:第1試合(開始13:22) 振球

全福江	000 100 100	2	13	2
相浦食販	300 020 01X	6	4	1

【三】日野、金丸、佐伯

【評】相浦は立ち上がり、試合不慣れの全福江・八代の速球をよく狙い4長短打を連ね3点を奪った。全福江にとって3点の負担は重く、四回安打の川口を日野の三塁打で還し1点。七回にも1点と詰め寄ったが、及ばなかった。

相浦のエース藤川は柔軟なフォームからカーブを多投し常に有利なカウントに立ち、八回を除き毎回三振を奪う好投を見せ13三振を奪った。

【相浦】打安点

②金丸 5 1 1
③山口 3 1 0
⑧中村 4 2 0
⑤原田 4 1 1
⑨浮田 4 3 0
④高木 4 1 2
⑥佐伯 4 1 1
①藤川 4 0 0
⑦前川 3 0 0
35 10 5

大会前日の長崎日日新聞に掲載されたチーム紹介より抜粋

**全福江** ○…連盟加盟チームよりピック・アップして編成したチームだけにチームワークが懸念されていたが練習によって解消し各人の呼吸もピッタリ合ってきた。チームの浮沈を握る大黒柱の八代は球質は軽いがスピード豊かな速球で打者と正面きって勝負する正統派投手。しかし大会使用球の健康B号ボールに慣れていないのが痛く、監督の悩みの種。

打撃陣はベテラン山下をはじめ全員典型的な短打戦法でのぞむが、中軸に人材なくやや迫力を欠く。(監督=野原)

**相浦食販** ○…地区優勝戦で前年の覇者、共済病院を破ったの出場。投手の藤川は予選で胸部を打ち不調気味だったが回復し、得意のアウトカーブとドロップに冴えを見せており崩れる心配はない。ほかに中村、原田、浮田に、左腕の山口、福山の5人をリリーフに起用できるのが強味・チーム原動力となった中村を中心に大物打ちの原田。これに老巧な山口(市役所)、長打の浮田(セントラル)を補強して重みを増した。22年にチーム結成し現在地区B級ながら地区大会2回優勝の戦績。

大会最終日は9時半から準決勝および決勝戦が行なわれた。秋晴れの好天気恵まれて早朝からファンが続々つめかけ、両スタンドとも超満員。とくに地元の十八銀行が出場したため、応援団がスタンドの一角に陣取り「長崎がんばれ」の声援しきり。

準決勝第1試合は十八銀行が前半のチャンスをモノにし相浦食販を5-2で下し、第2試合は最後まで予断を許さぬ緊迫したゲームとなったが、住友潜龍炭鉱が端島炭鉱の反撃を振り切った。決勝戦は予想通りの対戦となったが5-5で同点の七回裏に十八銀行の守備の乱れを突いた住友潜龍が大量9点を奪って14-5で大勝し初優勝に輝やき、銀色燦たる長崎日日新聞社桑原会長杯は深堀弘監督の手にしっかりと抱かれた。この結果住友潜龍チームは西日本準硬式野球大会の県代表としての出場資格を獲得した。



(昭和29年10月18日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)

## 相浦食販 最終回の好機を逃す

【準決勝】第1試合(開始09:25)

振球

相浦食販	200 000 000	2	5	0
十八銀行	220 100 00X	5	8	4

【二】原田2、佐伯  
浜口、松本

- 【相浦】打安点
- ②金丸 5 1 0
  - ③山口 5 0 0
  - ⑧中村 4 1 0
  - ⑤原田 4 2 1
  - ⑨1浮田 4 1 1
  - ④高木 4 0 0
  - ⑥佐伯 4 2 0
  - ①9藤川 1 0 0
  - 9竹内 2 0 0
  - H深山 1 0 0
  - ⑦前川 4 0 0

【評】初回到2点の先行を許した十八銀行はその裏、四球と暴投の無死三塁に浜口がスクイズ。一塁に生きた浜口は死球と犠打で三進し、宮崎のスクイズ失敗で三本間に挟まれたが、巧みに本塁を陥れて同点とした。さらに二回は2敵失走者が浜口の右二塁打で還って試合をリードした。

相浦食販の先発藤川は悪い出来ではなかったが、得意のドロップが決まらず、加えてバックの拙守で必要以上の得点を与え二回で降板した。

十八銀行の馬場投手は立ち上がりに中村、原田、浮田に連続長短打を喫して前途多難を思わせたが、以後は軟投ではやる相浦打線と交わり、七回から大久保とリレーし、再終回内野陣の連失による一死満塁のピンチを切り抜けて優勝戦に駒を進めた。(平井)

38 7 2

- 【十八】打安点
- ⑦板倉 2 1 0
  - ④5浜口 4 2 2
  - ⑨4苑田 3 0 0
  - ⑥比留木 3 1 0
  - ⑧宮崎 4 1 0
  - 8小柳 0 0 0
  - ⑤1大久保 4 1 0
  - ②松本 4 1 0
  - ①9馬場 1 0 0
  - ③磯田 2 0 0
- 27 7 2

## 端島不運の8エラー

【準決勝】第2試合(開始11:52)

振球

住友潜龍炭鉱	000 001 231	7	5	3
端島炭鉱	000 011 011	4	5	4

【三】西村、菅、森  
【二】大浦、高石

【評】前半戦は両投手の好投で緊迫したゲームを見せた。1点差を追う七回の住友潜龍は深堀の左前テキサス打を足場に無死満塁として、敵失により二者を還して逆転した。勢いに乗った潜龍打線は八回にも、深堀と大浦の長短打と3個の内野失でダメ押しの3点を加えた。守っては、五回に疲れの見た高野を思い切りよく大浦に代えた継投策が功を奏し最終の九回に二死満塁と食い下がる端島打線を抑えて快勝した。

一方、西彼の尾崎も決して不調ではなかったが、何れの得点にも大きく影響した内野陣の8失策により不運の敗戦投手となった。端島にとって最終回到2走者をおいて船津の左翼ポール際に僅かに切れた大飛球は一打同点の場面だっただけに惜まれる。また、四回に潜龍の高尾が放った中堅への大飛球を船津が好走してジャンプしながらの好捕は印象的なファインプレーであった。(坂口)

- 【住友】打安点
- ⑥菅 5 2 0
  - ⑤土橋 5 1 0
  - ⑦高尾 5 1 2
  - ①9高野 5 0 0
  - ③深堀 5 2 1
  - ⑨1大浦 3 1 1
  - ⑧西村 2 1 0
  - ②中野 4 0 0
  - ④奥村 4 0 0
- 38 8 4
- 【端島】打安点
- ⑤吉田 3 0 0
  - ④川本 5 1 0
  - ③森 5 2 1
  - ⑧船津 5 1 0
  - ⑨宮田 5 3 2
  - ①尾崎 4 0 0
  - ②高石 4 1 1
  - ⑦豊福 3 0 0
  - ⑥石丸 4 2 0
- 38 10 4

### 大会役員

- ◇名誉会長=桑原用二郎 ◇会長=渡貫良治 ◇副会長=山田吉太郎、平山市右衛門 ◇大会委員長=山口六三郎
- ◇副委員長=渡辺源、伊藤利勝 ◇審判委員長=松浦継義 ◇副委員長=田中光成、尾崎光次、宮崎伊三郎
- ◇総務委員長=中山軍治 ◇副委員長=前田喜佐美 ◇顧問=田中円三郎、鈴田正武 ◇審判=田中実、西見好広、小路啓、小屋敷正美、坂本伸美、丸田幸雄、空閑泰雄、大久保力、比留木岩雄、黒川勝、浜口太門、松沢繁、浜本正男、伊東司、角田正美、森田武治 ◇スコアラー=平井清光、坂口雅之

# 桑原會長杯は北松へ

秋空に奏でた郡市對抗野球

# 潜龍、實力の勝利

十八銀行 惜しい七回の崩れ

## 白熱のシーソー戦

【十八】打安点	【住友】打安点
⑦板倉 4 1 0	⑥菅 6 3 0
④54 浜口 2 0 0	⑤土橋 5 0 1
⑨49 苑田 5 1 1	⑦高尾 4 2 2
⑥比留木 4 3 2	⑨19 高野 4 1 1
⑧宮崎 4 0 0	③深堀 4 1 0
⑤1 大久保 4 2 0	⑨1 大浦 4 2 1
②松本 2 0 0	⑧西村 5 1 1
③磯田 4 0 0	②中野 4 1 1
①98 馬場 4 1 0	2 福富 1 0 0
33 8 3	④奥村 5 2 1
	42 13 8

【優勝戦】 (開始15:00)

振球 【本】高尾、高野

十八銀行	102	101	000	5	5	4
住友潜龍炭鋳	210	200	90X	14	8	4

【三】比留木

【二】西村、大浦

【評】前半は追いつ追われつの熱戦も、七回に住友潜龍の挙げた大量9点に止めを刺した。

住友潜龍は十八銀行の先発・馬場の球威がない球を初回に高尾と高野が連続ランニング本塁打し、二回にも1点加えて3-1とリードしたが、十八銀行は三回に板倉の左前打に端を發し苑田、比留木が連続長短打して同点。四回には敵失などで1点のリードを保った。

しかし、その裏の潜龍は遊失を足場に土橋のスライズと高尾の安打などで試合は三転するなど、1点を争うシーソーゲームとなり、六回に十八銀行が同点にしたことから、俄然試合は白熱してきた。

ところが七回の潜龍は無死で高野が四球後、相手内野陣にエラーが続出し労せず2点を拾った。さらに大久保がムキになるところを、西村と中野が叩いて勝敗を決した。このあたり潜龍の攻撃ぶりにはソツがなかった。この回の内野陣のエラーは五回に馬場からマウンドを受け継いだ大久保が好投してただけに気の毒であった。十八銀行守備陣の乱れが得点差を大きくした試合だった。

### 【表彰選手】

- ◇最優秀選手賞＝大浦投手(住友潜龍炭鋳)
- ◇殊勲選手賞＝深堀一塁手(住友潜龍炭鋳)
- ◇首位打者賞＝浜口二塁手(十八銀行)
- ◇敢闘賞＝大久保投手(十八銀行)



### 二日間の熱戦を讃える

大会の掉尾を飾る閉会式は、午後5時から大橋球場で行なわれ、渡辺大会副委員長から成績発表があり、渡貫大会会長(長崎日日新聞社長)から優勝チームに対し、桑原杯、大優勝旗、読売新聞社杯、並びに賞品賞状が授与され、また準優勝の十八銀行や第三位の端島炭鋳、相浦食販、さらに個人賞などの数々の賞品、賞状が授与され最後に渡貫大会会長から「二日間にわたる大会を通じ、各チームの全力をつくした熱戦が展開され、誠に意義深いものであった。この間、郷土の榮譽を担い出場された9チームの中、ここに優勝チーム北松住友潜龍炭鋳が栄冠を獲得されたことは慶賀にたえない。優勝チームをはじめ各地区代表におかれましては今後さらに練習に励み

スポーツ振興に寄与されんことを念願します。また本大会に優勝された住友潜龍チームは来る31日から山口県で開かれる西日本大会に本県代表として出場されますが、その健闘を期待してやみません。最後に来賓、審判連盟、県警察本部から多大の御援助をいただき主催者側として厚く御礼申し上げますと共に、二日間にわたり連日スタンドから拍手、激励していただいたファン各位に対し心から感謝の意を表します」と、閉会のあいさつがあり、両チーム主将の手により二日間センターポールにひらめいた国旗大会旗が降下され、県警察本部プラスバンドの吹奏裏に薄暮迫るダイヤモンドを一巡したが、桑原会長杯を手にした深堀監督以下住友潜龍ナインの眼には感激の涙が光っていた。

天皇賜杯第9回全日本軟式野球大会【50チーム】

(S29.10.3～・徳島県)

日鉄北松鋳業所 【一】 5-1 金沢クラウン(石川)  
【二】 2-3 ビクターオート(埼玉)

第9回北海道国体(26チーム)には参加なし

第5回西日本準硬式大会【28チーム】

(S29.10.31～・山口県)

十八銀行 【一】 3-2 三共野洲川工場(滋賀)  
【二】 8-7 宇部曹達(開催地)  
【準々】 4-10 広島復興事務所(広島)  
(住友潜龍炭鋳の代理で出場)